

ムクドリ (*Sturnus cineraceus*) の埒の全国の  
状況のアンケート調査

竹中 踐・竹中万紀子

Roosts of the Gray Starling (*Sturnus cineraceus*) in Japan:  
A Questionnaire

Sen TAKENAKA and Makiko TAKENAKA

北海道東海大学紀要理工学系

第 5 号 1992年

25 ~ 36 頁

## ムクドリ (*Sturnus cineraceus*) の埒の全国の 状況のアンケート調査

竹中 踐\*・竹中万紀子\*<sup>2</sup>

### Roosts of the Gray Starling (*Sturnus cineraceus*) in Japan: A Questionnaire

Sen TAKENAKA\* and Makiko TAKENAKA\*<sup>2</sup>

\*Research Institute for Higher Education Programs, Hokkaido Tokai University,  
Sapporo 005, Japan

\*<sup>2</sup>17-1-1-1-306 Kawazoe, Minami-ku Sapporo 005, Japan

(Received 30 October, 1992)

A questionnaire on roosts of the Gray Starling in Japan was conducted in 1989. Localities, number of assembling birds, type of vegetation of roosts and roosting season were filled out by Japanese ornithologists. Data on the 162 roosts were obtained from 127 persons. Roosts were mainly found in central part of Honshu, especially large ones were. Bamboos and reedy riversides marsh were more frequently used as roost places. Large assemblages were often found in street trees and park woods in urban areas.

**key words:** Roost, Distribution, Gray Starling, Japan, Questionnaire

#### 1. はじめに

鳥類の埒<sup>ねぐら</sup>は、就寝中の鳥の安全が確保される条件が必要であることは当然のことである。鳥類の種によっては多数の個体が集合して就寝する行動が見られ、集団埒を形成する。このような鳥種では埒が単なる安全な就寝場所であること以外の埒の機能が検討されることもあり、また埒集合集団の変遷がどのような生態学的意義があるかについて検討されてもいる。集団埒を形成するムクドリ類についてもそのような論議があり、日本のムクドリ (*Sturnus cineraceus*) についても同様である。ひとつあるいは1地域のムクドリの埒形成の詳細な調査が、埒変遷に関する要因の分析あるいは埒の機能の分析に必要なではあるが、ムクドリは渡りを行

い、地方の気候等により生活サイクルに違いがあるので注意を要する。日本全体の中で調査対象地域がどのような位置にあるかとか、特定の埒が一般的なものであるか、特異なものであるかといったことを検討しておく必要がある。

本調査では、日本全国の鳥類研究者等を対象にアンケート形式でムクドリの埒に関する情報を収集し、それをまとめることにより日本列島に見られるムクドリの埒のおおまかな傾向を把握することを目的とした。そのことにより、個別のムクドリ埒の研究結果の検討を、全国的な傾向を考慮してよりの確に行うことができるようになる。

\*北海道東海大学教育開発研究センター、\*<sup>2</sup>札幌市南区

## 2. 調査方法

アンケートは郵送で行い、返信を回収した。アンケートの項目は、知っているムクドリ罫があるかどうか、罫の存在する(した)地名、罫の形成期間または観察日、集合羽数、罫場所の林相等の特徴である。アンケートは日本鳥学会会員および会員からの紹介者に宛てた。発送数は約750通であるが、住所変更などによる未到達分がある。アンケート発送は1989年12月に行った。回収期限は特に定めなかったが、ほとんどは1990年初めに返信されている。

## 3. 結果および考察

アンケートの分析は回答のあったものについて行った。未回答については、かならずしも罫の存在のないことを意味しないことと、アンケート中に罫の有無を問う項目があるので、回収率の検討は意味がないと考えた。回答のあったものの内、罫の情報の得られたものの数値を表1に示す。四国については研究者が少なく、アンケート送付数自体が7通と少なく、今回は回答が得られなかった。罫を知っている割合は甲信越・北陸地方、関東地方、近畿地方が比較的高く、北海道および九州・沖縄は低かった。北海道、九州・沖縄はムクドリの生息自体がまれであるとの回答も多かった。日本野鳥の会の鳥類分布調査においても、北海道、九州、琉球列島のムクドリの分布記録の少なさが指摘されている<sup>1)</sup>。

各罫情報の記録は表2に示す。これには、必ずしも罫を確認していない罫への集合途中の中継の記録も載せた。罫の規模の大きな例(5千羽以上)は、東北地方から近畿地方にかけて見られるが、北海道および中国、九州・沖縄地方からは大規模な罫の情報はなかった(表3)。同様の傾向が全国の鳥獣行政担当者に対して行われたムクドリの生息状況に関するアンケートにおいても見られている<sup>2)</sup>。都市鳥を中心としたムクドリの罫アンケートでは、市街地における罫は、街路樹などが主要な立地環境となっているが<sup>3)</sup>、本調査においても、都市部の街路樹、公園などの並木における罫の例が報告されている。長岡市、つくば市、習志野市、船橋市、東京都豊島区、静岡市、和歌山市、京都市、神戸市にそのような例があり、その内5例は5千羽以上の大規模な罫となっている(表2)。本研

究で得られた罫の植生の区分では、竹林および落葉樹が多く、ヨシ原も比較的多い(表4)。罫の林の利用形態の回答を指定しなかったために記載のあった分だけによるが、河岸林が多く報告されている(表4)。竹林が罫に多く利用されることは竹中らも指摘している<sup>2)</sup>。

表2の記録をもとに夏、秋、冬の季節ごとに日本地図上に罫位置と集合規模を図1に示した。複数の季節にまたがる記録はそのどれにも記入してある。関東地方に罫が多く記録されているのは研究者が多いことにも起因しているが、本州の中央部分に集中して罫が多く見られる。ムクドリは繁殖期は東日本に偏って分布し、冬期には北部日本からは大部分が南に渡り、南西日本に分布が広がることがしられる<sup>14)</sup>。したがって、南北の両地域で罫情報が少なく、周年生息している本州中部に情報が多きことは、ある程度実際を反映していると思われる。罫の集合規模は、夏から冬の各季節に小規模と大規模の双方を含み、集合規模の季節的変遷の明確な傾向を見いだすことはできない。ただし、夏と冬の比較では、夏の方が大規模な罫集合の割合が高い(表3)。このことは竹中らも指摘しており<sup>2)</sup>、秋から冬にかけてムクドリが大群をなす<sup>4)</sup>といった記述は必ずしも適切でないといえる。埼玉県の越谷市<sup>5)</sup>や長野県の善光寺平<sup>6)</sup>等における大規模な罫に関する詳細な研究があるが、小規模な罫も含めた研究がムクドリの群れの季節的変遷の把握に必要であろう。

アンケート項目以外の回答事項としては、罫の共通利用種の記載があった。スズメが7例で付記されていたが、他にコムクドリ、ツバメ、コサギ、カラス類、トビも各1例あった。また、過去に存在し消失した罫の情報および現在は罫なしの回答の中に、罫に利用できるような林(竹林など)が伐採されるなどして、周辺に罫が見られなくなったといった環境の変化に関するものがあった。

## 謝 辞

このアンケート調査に会員名簿の利用を承諾下された日本鳥学会に厚く感謝申し上げる。また、アンケートに協力下された方々に紙面を借りてお礼を申し上げます。この研究は、農林水産省農林水産技術会議事務局の生態秩序計画(バイオコスモス)の一環として行ったものである。(BCP93-I-B-1)

## 引用文献

- 1) 日本野鳥の会, (1988), : 第3回自然環境保全基礎調査, 動植物分布調査報告書 (鳥類), 491 pp. 環境庁自然保護局.
- 2) 竹中万紀子・中村和雄・黒田長久・杉森文夫, (1987), : ムクドリの全国現状アンケート調査(2) 罫と生息状況, 応用鳥学集報 7:1-14.
- 3) 唐沢孝一, (1990), : 都市鳥の罫に関する全国アンケート結果, 都市鳥研究会会誌 7:34-45.
- 4) 環境庁, (1981), : 日本産鳥類の繁殖分布, 554 pp. 大蔵省印刷局.
- 5) 黒田長久, (1973), : 越ヶ谷のムクドリ冬罫群の季節変動と大松夏罫群, 山階鳥類研究所研究報告 7:34-55.
- 6) 羽田健三・牛山英彦・寺西けさい・佐野昌男, (1967), : 長野県下の善光寺平におけるムクドリの冬期の就罫地域群 (第一報), 日本生態学会誌 17:234-237.

表1. ムクドリ罫アンケートの地域別回答数と罫情報回答数

地 域	回 答 数	罫を知らな いの回答数	罫を知るの 回 答 数	情報の得ら れた罫数
北 海 道	25	20	5	5
東 北	15	9	6	13
甲信越・北陸	39	18	21	34
関 東	106	50	56	59
東 海	27	18	9	10
近 畿	38	19	19	26
中 国	12	6	6	9
四 国	0	0	0	0
九州・沖縄	19	14	5	6

表2. ムクドリ囀アンケート・囀情報

(期間の数字は小字が年, 1から12が月; 集合サイズの+はそれ以上; 複数回答の一括の情報は同上で示した; 回答者の#は間接伝聞; 印刷物情報は必要事項を抽出した)

市町村	地点名	期間・観察日	集合数	囀地特徴	回答者
北海道					
十勝池田	清見	897-9	100-200	河岸林	玉田克巳
苫小牧市	樽前	8-9	500	ミズナラ林	三浦二郎
苫小牧市	沼ノ端	899頃数年	数千	-	大畑孝二
札幌市	北区	8910・3年冬	600	ヤチダモ大木	島田明英
札幌市	中央区	901・毎冬	50-2000	ビル屋上	同上
札幌市	中央区	70頃	1000+	ビル屋上	野村梧郎
東北地方					
岩手県					
盛岡市	夕顔瀬	887-10	200-4500	河岸	岩手大学野
盛岡市	新太田橋	8810	3000	河岸	鳥の会(玉)
盛岡市	高速	8810	1000	河岸	地恒昭
盛岡市	舟場橋	8810	1000	河岸	同上
盛岡市	岩大植物園	8912-	500	針葉樹	同上
宮城県					
河北町	鶴家	899-11	700	ケヤキ大木	立花繁信
河北町	原	899-11	500	ケヤキ林	同上
桃生町	嶺	899-11	500	竹藪	同上
-	伊豆沼	7911-12	2000	雑木林	竹丸勝朗
仙台市	名取川	759-12	20000	竹藪	同上
仙台市	名取川	89秋-12毎年	数千-3万	畑地竹林	小山均
福島県					
会津若松市	阿賀川	7-8	5千・数万	河岸林	高橋真
郡山市	富田	7910-803	10000	竹, ニセアカシア	水野伸彦
甲信越・北陸地方					
新潟県					
新潟市	県庁	84-85夏	600-10000	竹, 柳, アシ	小池重人
新潟市	信濃川	同上	同上	同上	同上
新潟市	阿賀野川	同上	同上	同上	同上
新潟市	赤塚佐潟	898-10	3000	アシ原	千葉晃
新潟市	-	898-12	1000	竹林	渡部通
-	豊栄	同上	同上	ヤナギ	同上
-	五泉	同上	同上	アシ原	同上
柏崎市	安政町	896-10頃	500-10000	アシ原	小林成光

竹中 踐・竹中万紀子

柏崎	市	北園	町	同上	同上	砂防林クロマツ	同上
柏崎	市	北園	町	—	2000	アカシア	同上
長岡	市	長岡	市街	897-12	3000	ネオン塔, イチョウ	渡辺 央
長岡	市	長岡	駅	10頃—	数千—数万	—	高橋 晃
—	—	福島	潟	秋	1000—20000	アシ原	真野 徹
新穂	村	下新	穂	8911	300	竹林	近藤健一郎
新津	市	—	—	6510頃	30	竹林	佐藤 春雄
富山	県	—	—	—	—	—	—
富山	市	呉羽	町	78.7911-12	数万	竹, 杉	松村 俊幸
黒部	市	石田	—	65頃	500	ケヤキ	大田 保文
—	—	富山	大橋	8810	1000	中州藪ヤナギ	熊木 信男
石川	県	—	—	—	—	—	—
—	—	河北	潟	毎年夏	2000	ヨシ原	池田 善英
—	—	河北	潟	毎年・896-10	5000+	アシ原	竹田 伸一
長野	県	—	—	—	—	—	—
中野	市	吉田	—	88秋	130	竹藪	斉藤 勝彦
長野	市	稲里	町	8912	100	竹林	滝沢 和彦
上山	町	新山	—	85-899-3	1000	竹林	母袋 卓也
佐久	市	中込	—	896-8	1000	ハリエンジュ	小林 広幸
—	—	芳川	—	899-10	1500	ニセアカシア	古厩 昌幸
松本	市	笹賀	—	888-10	12000	ニセアカシア	腰原 正己
松川	町	鶴部	—	892-6	20-400	河岸竹藪	吉田 保晴
飯田	市	松尾	—	899	300	河岸竹藪	吉田 保晴
飯田	市	松尾	—	899	200+	工場竹藪	吉田 保晴
駒ヶ根	市	小町	屋	846,897-9	50-1500	竹藪	吉田 保晴
穂高	町	上原	—	88冬	2700	竹林	腰原 正己
山梨	県	—	—	—	—	—	—
田宮	町	—	—	夏	1000-20000	アシ原	真野 徹
一宮	町	—	—	3	30-1500	寺社林, 農家	青木 進
八代	町	—	—	同上	同上	同上	同上
境川	村	—	—	同上	同上	同上	同上
竜王	町	—	—	同上	同上	同上	同上

関東地方

栃木	県	—	—	—	—	—	—
足利	市	ばん阿	寺	以前から	50-1000	—	菊池 正
—	—	渡良瀬	川	887	5000+	遊水池アシ原	阿部 汎孝
—	—	渡良瀬	川	毎年10-11	数千+	遊水池アシ原	深井 宣男

ムクドリ (*Sturnus cineraceus*) の噂の全国の状況のアンケート調査

群馬県							
前橋市	前橋駅前	75-83	11-3	3000	ケヤキ	-	
富士見村	富士見幼	8-4		5000+	ゴヤ, 竹	木原侃	
吉岡村	利根川	9		1000+	竹林	同上	
茨城県							
結城市	小松町	899-10		300	竹林	中村秀哉	
つくば市	洞峰公園	-		20000	公園緑地	原田直国	
つくば市	洞峰公園	895-9		1000	-	多田満	
神栖町	高浜	86-89	7-8	10000+	アシ原	茂田良光	
神栖町	利根川	889		数万	アシ原	武田勝宏	
埼玉県							
熊谷市	-	夏7-10		1000	寺院竹林	須永伊知郎	
越谷市	鴨場	以前から		万単位	-	小杉昭光	
越谷市	鴨場	45頃から		10000-200000	樹林	武井進	
越谷市	鴨場	冬10-4		20000	竹林	須永伊知郎	
大宮市	宮原町	77-89	5-10	15000	竹林, アカマツ等	遠藤光一	
大宮市	宮原町	88-89	9-10	2000	竹林	松田喬	
大宮市	大成町	87-89	9-10	200-3000	竹林	同上	
大宮市	佐知川	739-88		1000	竹藪	松木勝彦	
深谷市	広瀬川	868		数千-数万	河岸ヤナギ	柴田栄	
東松山市	下唐子	901		900	シノ藪	内田博	
入間市	不老川	898-11		12000	モウソウ竹林	柳沢紀夫	
富士見市	柳瀬川	80-85		1000-20000	ケヤキ	武井進	
川本町	上原	以前から		300	モウソウ竹, ケヤキ清	水古寿	
狭山市	上広瀬	75-88		-	樹洞, 戸袋	宮城富雄	
千葉県							
野田市	中野台	80		500-10000	ケヤキ	武井進	
小見川町	利根川	804-86	2	10000+	アシ原	鈴木藤蔵	
長生村	一松	86-89	12	3000	海岸松林	同上	
我孫子市	浅間前新田	869-10		400-5000	アシ原	尾崎清明	
千葉市	検見川	8710-90	1	100-1500	雑木林	元西孝嗣	
千葉市	都賀駅	毎年7-		-	モウソウチク	八木和主男	
千葉市	都賀駅	858-9		1000	モウソウ竹林	白井邦彦	
習志野市	津田沼駅	889		数万	街路樹	同上	
習志野市	津田沼駅	-		-	大学庭木	大庭照代	
習志野市	津田沼駅	88-89	10-11	10000	大学並木	石川敏雄	
習志野市	津田沼駅	-		-	大学構内	大槻都子	
習志野市	津田沼駅	-		-	大学構内	小野宏治	
船橋市	北習志野駅	86-89	初夏-11	5000+	ケヤキ並木	田中正彦	
市川市	市川小	85-89	夏-秋	6000	プラタナス	唐沢孝一	
市川市	新浜	以前から	6-10	数十-数千	メダケ林	蓮尾嘉彪	



東京都	葛飾区	水元公園	8912	12000	メタセコイア、カツラ	高橋成彰
	葛飾区	東立石	899-11	500	斎場ケヤキ	鶴見みや古
	葛飾区	京成立石	8911	数百	—	井小野宏治
	墨田区	—	894-5	数百	竹林	成末雅恵
	江東区	亀戸	902	150	寺院プラタナス	小野宏治
	豊島区	立教大学	75晩秋	500	スズカケ並木	石田健
	豊島区	立教大学	897-10	300	プラタナス	上田恵介
	杉並区	久我山	83-89冬	200	竹藪	安西英明
	杉並区	和泉	約15年前	3000	屋敷林	川田潤
	杉並区	—	—	—	—	竹下信雄
	世田谷区	桜	8711-1	500	竹林, ケヤキ	柴田佳秀
	世田谷区	宮坂	74-89秋, 冬	2000+	寺院竹林	横山隆一
	世田谷区	西部	夏, 秋	—	竹林	浦本昌紀
	練馬区	大泉学園	数年7-10	300	竹林, シイ, ケヤキ	森岡照明
	練馬区	南田中	896-10	3000	モウソウ竹林	山根茂生
	東久留米市	大門町	71-81	1000	寺院ケヤキ林	青柳昌宏
	保谷市	北町	895-6	200	クヌギ林	実方和宏
	調布市	—	7911	500+	竹林, 松林	野田拓男
	府中市	農工大	69頃	2000	雑木林	鳥居春己
	日野市	豊田	47	100	竹藪, 雑木林	宇田川龍男
	昭島市	多摩川橋	毎年秋-冬	5000	竹林	津戸英守
	立川市	砂川町	869-春, 88消失	30000	カツラ植林	同上
	国分寺市	光町	—	—	竹林	松本真由美
	八王子市	打越町	—	—	モウソウ竹	小宮輝之
神奈川 県						
	横浜市	小机	約25年前	—	鴨場	岩崎五郎
	海老名市	—	8311-2	100-1500	竹林, 雑木林	諸角寿一
	相模原市	麻溝台	毎年9-11	3000	雑木林	斎藤隆史
	小田原市	—	898-10	50-3000	会社地内	—
	小田原市	飯泉橋	898-11	10000	—	小野英敏
東海 地方						
静岡 県						
	伊東市	川奈	75-8910-3	100-3000	竹林	斉藤秀治
	静岡 県	静岡 駅	8912, 近年冬	—	街路樹	吉岡景昭
	静岡 市	静岡 駅	—	—	街路樹	長野修治
	静岡 市	小 鹿	数年秋-冬	300	社寺クス	渡辺明夫
	静岡 市	—	夏-秋	5000	公園ケヤキ	伴野正史
	住吉 市	飯 淵	871-	10000	照葉樹	孝森優秀
	浜松 市	中田島町	毎年9-2	10000	竹, ササ, マツ	鈴木直之

ムクドリ (*Sturnus cineraceus*) の雫の全国の状況のアンケート調査

愛知県	豊田市	和会町	893-	500	竹林	真野徹
豊橋市	豊川		約15年前	1000-20000	-	真野徹
岐阜県	神戸町	西座倉	79夏-秋	2000+	河岸竹林雑木	大塚之稔
北方町	高屋		879	-	竹林	大野義徳
近畿地方						
三重県	松坂市	魚見	889-	数万	河岸竹藪	橋本太郎
上野市	長田		8810	2000	河岸メダケ林	武田恵世
京都府	京都市	本能寺	7211-	800	銀杏, 菩提樹	有田一郎
京都市	京都市	向島	886-9	4000	河岸ヨシ原	須川恒
京都市	京都市	河原町	冬	200	庭園	#中村純夫
京都市	京都市	東山	冬	200	ホテル裏庭	#中村純夫
京都市	京都市	市役所	9-11	400	街路樹プラタナス	#中村純夫
城陽市	城陽市	水主神社	89冬	200-3000	社寺ケヤキ	中川宗孝
-	-	宇治川	89夏	3000	ヨシ, ヤナギ, 鉄塔	中川宗孝
大阪府	大阪市	諏訪	数年8-11	1000+	ポプラ, 柳	中川暁之介
大阪市	大阪市	阿倍野	899-10	50	校庭クスノキ	三星行雄
茨木市	茨木市	鮎川	-86秋冬	1000	竹藪	前田崇雄
茨木市	茨木市	安威川	901	300+	竹林	中村純夫
吹田市	吹田市	万博公園	8912	-	中継	中村純夫
豊中市	豊中市	新千里南	899	5000	竹林	福居信幸
豊中市	豊中市	新千里南	896-10	3000	竹林	藤波不二雄
泉南市	泉南市	牧野	-	15-20	クスノキ	杉野義雄
奈良県	天理市	東井戸堂	899	200	メダケ林	武田恵世
和歌山県	和歌山市	和歌山駅	898-10	52000	街路樹ケヤキ	増田耕造
和歌山市	和歌山市	和歌山駅	春-初秋	3000-50000	ケヤキ	黒田隆司
兵庫県	明石市	二見町	-	300-20000	竹林	阿部明士
神戸市	神戸市	須磨区	-	同上	街路樹プラタナス	阿部明士
神戸市	神戸市	垂水区	85-現在	100	ゴルフ場	田中元二

神 戸 市	垂 水 区	85—現在	100	松, 雑木	田 中 元 二
伊 丹 市	昆 陽 池	—	1000+	—	井 中 村 純 夫
小 野 市	船 木 町	—	300—20000	クヌギ林	阿 部 明 士
小 野 市	粟 生 町	—	同上	松林	阿 部 明 士
竜 野 市	舎 利 田	741, 現在消滅	12000	河岸竹林	三 谷 康 則

## 中国地方

岡 山 県					
岡 山 市	北 方	84	100	イチョウ	矢 吹 章
倉 敷 市	白 楽 町	86	30+	クスノキ	江 田 伸 司
広 島 県					
庄 原 市	本 町	895—9	100	ケヤキ	伊 藤 之 敏
鳥 取 県					
鳥 取 市	吉 方	875—10	100	倉庫屋根裏	清 末 忠 人
山 口 県					
防 府 市	西 浦	8410	2000	干拓地アシ原	脊 戸 宣 博
(防 府)	岡 田	8610	300	竹藪	小 林 繁 樹
新 南 陽 市	富 田	879,86夏—1	150	工場燃焼塔架	村 田 省 吾
平 生 町	人 島	83—10	1000	ため池アシ原	川 本 美 千 夫
田 布 施 町	麻 郷 米 出	8710	500	干拓地ヨシ原	内 山 由 子
					小 林 繁 樹

## 九州・沖縄地方

福 岡 県					
福 岡 市	九 大 付 近	12—1	50	(中継観察)	古 賀 公 也
苅 田 町	松 山	8910—11	20—500	埋立地アシ原	武 下 雅 文
筑 前 市	不 明	89夏—秋	200—	(中継観察)	阿 部 哲 士
大 分 県					
大 分 市	—	8712	500+	竹林	武 石 千 雄
宮 崎 県					
宮 崎 市	柳 瀬 橋	88—	春増える	橋梁	中 村 豊
佐 土 原 町	一 瀬 橋	82—	春増える	橋梁	中 村 豊
熊 本 県					
熊 本 市	江 津 湖	901	300	湖の島メダケ	今 村 京 一 郎
出 水 市	高 尾 野 町	901	30が3群	ササ藪	中 島 直

表3. ムクドリの地域・季節ごとの塹規模別数

(各季節について上段は5000羽未満の塹数, 下段は5000羽以上の塹数.)

地域	夏	夏 - 秋	秋	秋 - 冬	冬	冬 - 春	春	春 - 夏
北海道	0	2	1	0	1	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0
東北	0	1	6	1	1	0	0	0
	1	0	0	1	0	0	0	0
甲信越・北陸	2	3	6	1	2	1	4	0
	4	4	1	1	0	0	0	0
関東	0	7	9	5	4	0	1	1
	2	7	1	2	4	0	0	0
東海	0	1	0	2	0	0	1	0
	0	1	0	1	1	0	0	0
近畿	1	3	5	1	4	0	0	0
	0	1	2	0	0	0	0	0
中国	0	2	4	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0
九州・沖縄	0	0	1	0	3	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	19	32	10	15	1	5	1
	7	13	4	6	2	0	0	0

表4. ムクドリの塹環境別数

(利用形態別の区分と植生による区分の両方が回答にあった場合は重複して数えている。また植生が複数の区分の混合であった場合も重複して数えている.)

地域	街路樹・並木	河岸林	雑木林	ビル等人工物	竹林・ササ	ヨシ・アシ	落葉樹	針葉樹	照葉樹
北海道	0	1	0	1	0	0	2	0	0
東北	0	5	1	0	3	0	3	1	0
甲信越・北陸	1	8	0	1	10	8	6	1	0
関東	4	1	6	0	28	5	15	3	1
東海	1	1	1	0	5	0	2	1	1
近畿	3	5	1	0	9	2	10	2	0
中国	0	0	0	1	1	3	3	0	0
九州・沖縄	0	0	0	2	3	1	0	0	0
合計	9	21	9	5	59	19	41	8	2

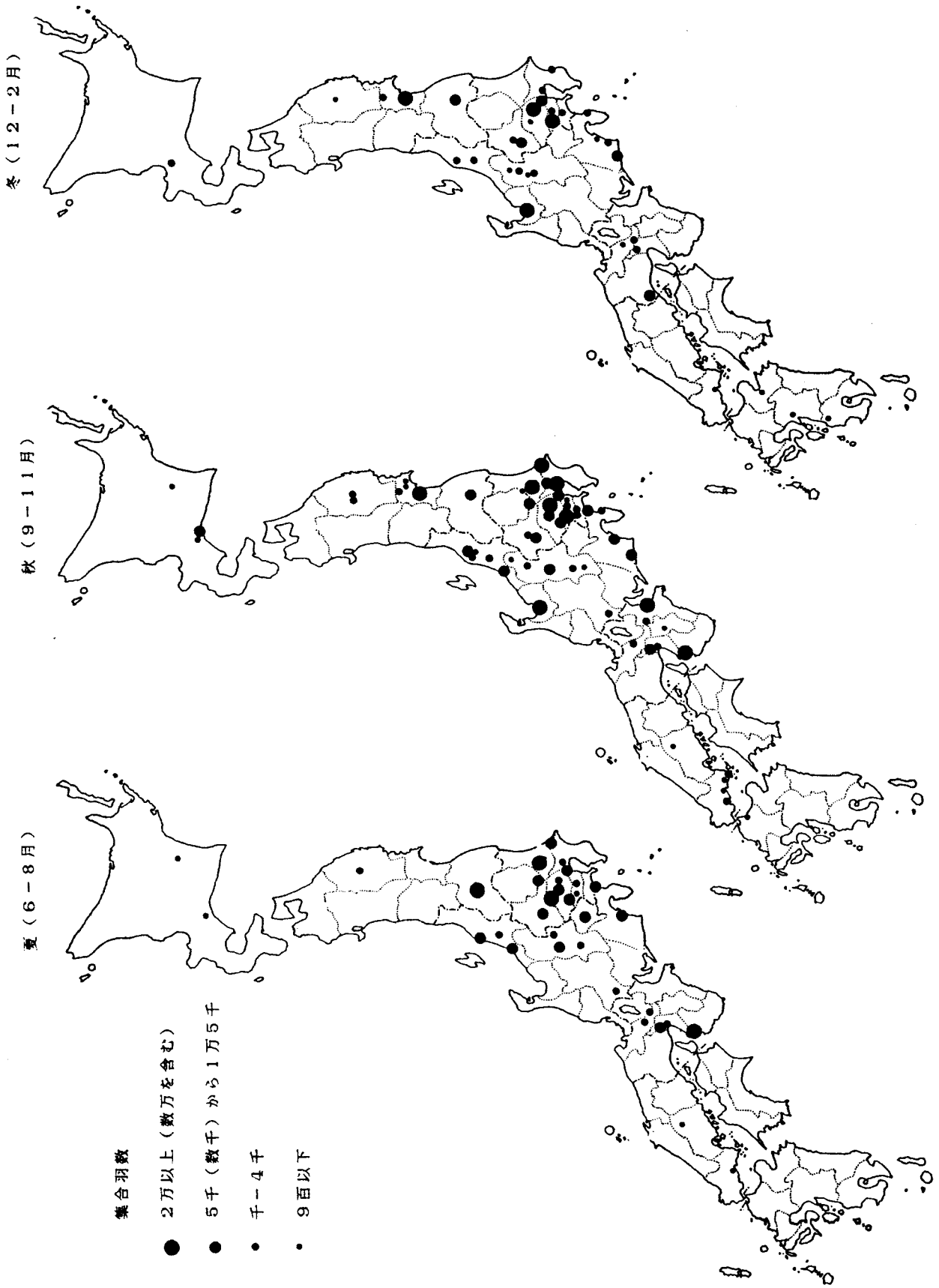


図1. ムクドリの鳩分布の季節的変遷